

達成につながるゴール



【取組の概要】

- ・「きれいな水」とは何かを疑問に感じた子どもたちが、身近な場所での水質調査の実施、水不足の解決に向けて取り組む大学の研究施設訪問などにより探究学習を実施。
- ・さらに、海の漂着ゴミ拾い、水を柱にSDGs未来都市として取り組む長野県大町市への訪問などを通じてさらに学習を深めた。
- ・学んだことや、水環境の未来のために自ら何ができるかなど、自校や他校の小学生に向けて発表を行い、地域の人への啓発も実践。

【取組の特徴】

- ・生徒による意見交換を通じて活動の振り返りを行うとともに、信州大学など学外のステークホルダーとも連携しながら、学習展開等について定期的な見直しを図っている。
- ・恵まれた水環境を有する地域において現状では課題とは認識されていない「水」に着目。道路や川沿いなどに見られるゴミなどの身近な問題から生徒自身が感じた疑問をもとに、主体的な学習を進めている。

【関連リンク】

<http://www.town.yamanouchi.nagano.jp/kyoiku/minamisho.html>





【身近な水質調査】

1学期は身の回りの川や学校の池、昨年米作りを実施した田んぼでの水質調査を実施。CODの測定により、身の回りの水がきれいだとわかった。



【海洋ゴミ拾い】

修学旅行では富山県氷見市の海岸でたくさんの漂着ゴミを目の当たりにし、驚くとともに、「海のゴミの問題が本当に起こっていてなんとかしたい」と感じた。



【信州大学訪問】

信州大学・アクアイノベーション拠点を訪問。海水を淡水化して水不足を解消しようとして奮闘する研究者の姿を目の当たりにしてきた。



【志賀高原の水質調査】

志賀高原の源泉付近の水がきれいかを確認めに行った子どもたち。きれいさを確認め「この水を本当に守ることができるのか」と不安を感じるようになった。